港湾振興便り

２０１４．１２
第９２号

＊：

目　　次

＊：

１　ポートエッセイ　―日中韓の文化交流で関係改善へ ―

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長）篠田　昭～

２　トピック

●「北極海航路の利活用に向けた国際セミナーin 札幌」を開催

（北海道　総合政策部　交通政策局　物流港湾室）

●セメント運搬船「暁光丸」船内見学会を開催

（大船渡市　商工港湾部　港湾経済課）

●東京湾大感謝祭2014を開催

（関東地方整備局　港湾空港部　沿岸域管理官付）

●瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会　平成26年度担当者会議を開催

（近畿地方整備局　港湾空港部　港湾計画課）

●南海トラフ巨大地震を想定した大規模津波防災総合訓練を実施

（近畿地方整備局　港湾空港部　港湾空港防災・危機管理課、近畿圏臨海防災センター）

●「宮子姫みなとフェスタ」を開催

（近畿地方整備局　和歌山港湾事務所）

●「志布志港ポートセミナー」を開催

（志布志市　港湾商工課）

３　お知らせ

＊：

1　ポートエッセイ　―日中韓の文化交流で関係改善へ―

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長)　篠田　昭～

＊：

今年も北東アジアの国際情勢は厳しい状況が続いた。特に日本と中国、韓国の関係は「戦後最悪」との言葉も聞かれる。そんな中で先月末、横浜市で日中韓の文化大臣会合が開かれ、文化交流から局面を打開することが確認されたのは明るい出来事だった。

文化大臣会合では、国同士が厳しい関係にある中でも日中韓の文化交流が継続されてきたことを評価した。特に今年は日中韓の文化交流拠点都市（東アジア文化都市）をそれぞれが指定、交流の実を挙げたことを互いに確認した。

今年の東アジア文化都市に日本で選ばれたのが大臣会合の開催都市、横浜だった。中国は泉州市、韓国は光州広域市が選定され、相互に芸能団の派遣や青少年交流など実績を積み上げた。しかし、今年も日中韓の緊張は続き、「１年ではとてもダメ。東アジア文化都市を継続しよう」との考えで一致。来年から３年間の東アジア文化都市の選定に入っていた。

新潟市は２０１５年の東アジア文化都市に立候補し、内定をいただいていた。今回、文化大臣会合に合わせて２０１５年の東アジア文化都市の候補都市（日本は新潟市、中国は青島市、韓国は清州市）が招かれ、正式決定された。

日中韓の緊張関係は、特に日中貿易面で大きなマイナス影響を与えている。新潟から見てもコメなどの農産物が輸出できない影響は大きい。表向きは福島第１原発事故による安全確認とされているが、それを信じる関係者はほとんどいない。

幸い、秋以降、日中首脳が面談したり、韓国大統領が日中韓の３か国首脳会談を提唱したり、ようやく改善の明るい兆しが見え始めている。新潟では来年２月、文化都市のオープニング・セレモニーを開催、春から本格的な交流をやっていきたい。メイン期間となる７月から９月には、３回目となる「水と土の芸術祭」を予定している。そこにも中韓のアーティストを招くなど東アジアのカラーを明確にしていきたい。

この機会を生かして、日中韓の関係を新潟から改善し、３か国の貿易を再び上昇気流に乗せ、港湾振興にも結びつけたい、と強く念じている。

＊：

２ トピック

＊：

●「北極海航路の利活用に向けた国際セミナーin 札幌」を開催

（北海道　総合政策部　交通政策局　物流港湾室）

１１月１０日（月）、北海道は海洋政策研究財団と共同で『北極海航路の利活用に向けた国際セミナーin 札幌』を開催しました。

北極海航路の利活用は、北海道が進める「北東アジア・ターミナル構想」の重要なテーマの一つであり、これまで関連情報の収集やセミナーの開催など、様々な取組を行ってきました。

昨年に引き続き二度目の開催となる国際セミナーには、大学研究者や港湾関係者など昨年を上回る約１６０人が参加しました。

前半の講演では、ロシアやノルウェー、デンマークの船社や研究機関の専門家から、北極海航路の現状や課題、今後の展望について最新の情報が提供され、後半のパネルディスカッションでは、北海道から道内港湾の活用方策などを発信したほか、会場参加者と講演者の間でも活発な意見が交換され、北極海航路に対する道民の期待の高さが現れたセミナーとなりました。

北海道としては、北極海航路における東アジアの拠点となることを目指し、引き続き北極海航路の利活用に向けた取り組みを進めて行きたいと考えています。

開催結果の詳細（北海道庁のHPへリンク）

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/bkk/NSR_seminar.htm

ロシア原子力船公社　ルクシャ社長の講演

パネルディスカッションの様子

●セメント運搬船「暁光丸」船内見学会を開催

（大船渡市　商工港湾部　港湾経済課）

１１月１８日（火）に大船渡港において、『セメント運搬船「暁光丸」船内見学会』（主催：太平洋汽船㈱、太平洋沿海汽船㈱、（公社）東北海事広報協会、大船渡港振興協会、協力：太平洋セメント㈱大船渡工場）が開催され、大船渡市立大船渡小学校5年生が参加しました。

この見学会は、青少年の海事啓発並びに海事思想の普及と港や船に関わる仕事への理解を深めることを目的として、復興の願いを込め「暁光(ぎょうこう)丸」と名付けられた新造船が、船籍港である大船渡港に初入港することにあわせて行われました。

児童たちは、普段目にすることができない操舵室や機関室などを目を輝かせながら見学し、復興に向けて多くの人が様々な仕事に携わっていることやセメント運搬船の役割などを学びました。

その後、同船は仙台港に向けて出港しましたが、児童たちは「暁光丸」に盛んに手を振って見送り、感激の見学会となりました。

セメント運搬船「暁光丸」（大船渡港野々田ふ頭接岸）

大船渡小学校5年生2組の記念撮影（船籍：大船渡）

見学会（ふ頭での説明）

見学会（船長からの説明）

●東京湾大感謝祭2014を開催

（関東地方整備局　港湾空港部　沿岸域管理官付）

東京湾大感謝祭2014（主催：東京湾大感謝祭実行委員会　共催：関東地方整備局他）が、10月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり、横浜市中区の横浜赤レンガ倉庫1号館および赤レンガ倉庫前広場において開催されました。

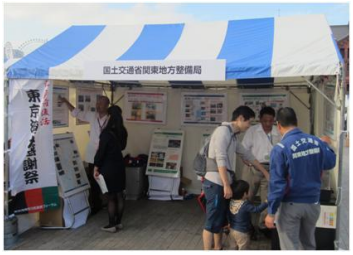
開会式は25日午後1時から、参加団体代表者など多数が参列し、東京湾再生官民連携フォーラム議長の來生　新(きすぎ　しん)放送大学副学長の挨拶で始まりました。式には来賓として大脇　崇国土交通省港湾局長、鈴木伸哉横浜市副市長、藤木幸太横浜港運協会副会長、衆議院松本純議員(代理渡部秘書)のご出席を頂きました。

写真：開会式の模様（上左：來生新議長　上中：大脇崇港湾局長　上右：鈴木伸哉横浜市副市長）

今回で2回目となる東京湾大感謝祭には、官民合わせて66団体が参加し、国や沿岸自治体の東京湾環境への取り組みをPRするとともに、海洋レジャーや海の生き物紹介、江戸前食材の配布・販売、江戸前食文化や東京湾環境改善に関する研究などのミニシンポジウム、東京湾にまつわる各種パネル展示、横浜港内体験クルーズ、SUPレース、ハゼ釣り大会など、多くの催しで賑わいを見せました。

関東地方整備局は、港湾の役割や管内の港湾整備、東京湾の環境整備事業についての紹介、また、油回収兼清掃船べいくりんの洋上視察と横浜港内説明を行い、特にべいくりんによる海面清掃活動には多くの質問を頂くなど、関心の高さがうかがわれたところです。

感謝祭には2日間合計で約8万2千人の方々に来場頂きました。このイベントを通じて、東京湾の環境改善への取り組みとその重要性を広くPRすることができたと思います。



写真（左：関東地整ブース　右：会場の模様）

●瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会　平成26年度担当者会議を開催

（近畿地方整備局　港湾空港部　港湾計画課）

瀬戸内海沿岸の107の市町村と11府県9国土交通省地方機関から構成される瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会は、瀬戸内の各地域が一体となり海を活かした地域づくりを考え実施することにより、瀬戸内海地域全体のさらなる振興と発展を図ることを目的として、平成3年5月に設立されました。

この協議会の担当者会議が10月30日（木）～31日（金）の2日間、和歌山県湯浅町にて行われ約80名が参加しました。会議は2部構成で行われ、第1部では、上山章善湯浅町長のご挨拶に始まり、全体で今年度の活動報告を行い、その後、魅力検討委員会・環境事業委員会・情報発信委員会・防災委員会の4つの分科会に分かれての議論が行われました。第2部では各分科会での議論の内容報告及び来年度の活動内容についての方向性が提示されました。会議全体を通して、瀬戸内海地域の振興・発展、協議会活動を推進していくための活発な議論が展開されました。

また、31日の現地視察では重要伝統的建造物群保存地区、広村堤防や稲むらの火の館の視察を行いました。

上山章善湯浅町長のご挨拶

重要伝統的建造物群保存地区

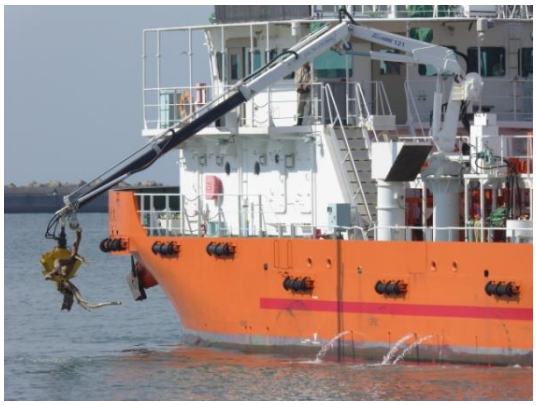
●南海トラフ巨大地震を想定した大規模津波防災総合訓練を実施

（近畿地方整備局　港湾空港部　港湾空港防災・危機管理課、近畿圏臨海防災センター）

南海トラフ巨大地震を想定した広域的かつ実践的な訓練として、１１月８日（土）に、和歌山会場（和歌山県和歌山市の和歌山下津港西浜地区及び北港地区）及び大阪会場（大阪府堺市の堺泉北港堺２区基幹的広域防災拠点）において、官民で156団体、約5200名の参加のもと実施しました。

本訓練は、平成１６年１２月２６日に発生したスマトラ島沖地震（インド洋大津波）の津波被害を契機として、平成１７年度ここ近畿地方を皮切りに、毎年、国内の１地方において「大規模津波の被害軽減」と「津波に対する知識の普及・啓発」を目的として行われています。

和歌山会場においては、北川イッセイ国土交通副大臣、仁坂吉伸和歌山県知事、尾花正啓和歌山市長、大阪会場においては小河保之大阪府副知事、竹山修身堺市長ご臨席の下、命を救う訓練として、津波情報収集、津波避難、倒壊家屋・ビル屋上や海上からの消火・人命救助、緊急避難所での救命・救護、トリアージ、命を繋ぐ訓練として、道路・航路啓開、陸海空路の緊急支援物資輸送、また今回初めて緊急確保航路からコンテナ引き上げによる啓開と、コンビナート火災消火の実働が行われました。学生や市民参加を得た訓練を通じて、自助・共助、参加機関による公助、広域防災拠点間の連携などが確認されました。



海洋環境整備船による津波漂流物の回収

緊急確保航路の啓開（コンテナ回収）

陸上自衛隊による京都舞鶴港からの航空輸送

浮体式防災基地を活用した緊急支援物資の海上輸送

●「宮子姫みなとフェスタ」を開催

（近畿地方整備局　和歌山港湾事務所）

１１月２日（日）に和歌山県御坊市塩屋の日高港において「宮子姫みなとフェスタ」が開催され、家族連れなど1万2千人の来場（主催者発表）で賑わいました。

「宮子姫みなとフェスタ」は、御坊市に伝わる宮子姫伝説と御坊市の海の玄関である日高港のPRを目的に、御坊市及び御坊市観光協会の主催で毎年１１月上旬に開催されており、今年で8回目となります。

今年は御坊市市制施行60周年記念事業としても位置づけられ、宮子姫や藤原不比等をはじめとする宮子姫にゆかりのある人物が会場を練り歩く宮子姫時代行列、日高港上空でのエアロバティックショー（航空ショー）、ステージイベント、地元物産品等の展示・販売などが行われ、当所も海洋環境整備船「海和歌丸（うみわかまる）」の一般公開並びに事務所PRブースの出展で参加しました。

「海和歌丸」の一般公開には開始前から家族連れが列を作るなど高い関心のなか766名の方々にお越しいただき、PRブースにおいても「海和歌丸」の模型や海洋環境整備事業をはじめとした事務所事業の紹介パネルを展示し、多くの方にお越しいただきました。

オープニングの様子

「海和歌丸」一般公開の様子

「海和歌丸」から日高港を眺める

PRブース（右は柏木征夫御坊市長）

●志布志港ポートセミナーを開催

（志布志市　港湾商工課）

１１月１８日（火）、志布志港の一層の利用促進を図るため、荷主、船会社、物流関係者など約２００名を招き、平成２６年度志布志港ポートセミナーを東京（椿山荘）にて開催しました。セミナーは布袋嘉之鹿児島県副知事の主催者あいさつに始まり、立元聡鹿児島県土木部港湾空港課長、柴昭一郎志布志市港湾商工課長が国内外定期航路及び新若浜地区「国際コンテナターミナル」等の港湾施設の紹介や志布志港における各種インセンティブ実施内容、背後の分譲地など各種PRを行いました。

また、阪和興業株式会社の角谷亨是木材部国際開発課長が「国産材輸出から見る山林再生と地方創生」と題して、国内外の木材市場の現状や日本一の原木取扱量を誇るまでになった志布志港発展の推移、伐採に対する山林再生の状況や今後の課題について講演し、セミナー後には情報交換会も行われました。

写真：セミナーの模様（左：布袋嘉之鹿児島県副知事　右：立元聡鹿児島県土木部港湾空港課長）

＊：

３　お知らせ

＊：

＊：＊：＊：　本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先　：＊：＊：＊＊：＊＊：＊：

日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002　港区愛宕１－３－４
TEL：03-5776-0630　FAX：03-5776-0631
e-mail：bcf06323@nifty.com

＊：